

昭和十三年四月十九日

書記官

書記官長

案

明治神宮社務所より寄贈三條山明治天皇御製表
國民精神總動員中央聯盟理事より送附致来
り候間此致御送付申上候也

昭和十三年四月十九日

樞密院書記官

樞密院

〇取付

議長、副議長、顧問官、書記官長、書記官、理事官

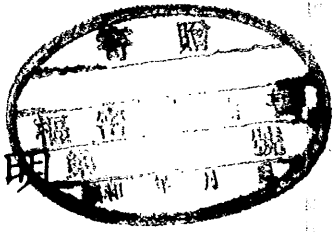
明治神宮社務所ヨリ寄贈ニ係ル「明治天皇御製
國民精神總動員中央聯盟理事ヨリ送附致來リ候
間此段御送付申上候也
昭和十三年四月十九日

樞密院書記官

秘密御書

明治十三年四月十日

閣下於前日由東京上陸後
因多餘餘地中與野獸等
即命軒宮林務所等以
密觀二所即命天皇御覽



明治天皇御製

國命 國命 國命 國命

友 懐 事もともにたすけかはしてむつびあふ友ぞ世にたつ力なるべき
 事しあらば火にも水にもいりなむと思ふがやがてやまとたましひ
 しきしまの大和心をみが、すば劍おふともかひなからまし
 世の中の事ある時にあひてこそひとの力はあらはれにけれ
 ちよろづの仇にむかひてたわまぬぞ大和をこの心なりける
 なよたけはすなほならなむうつせみの世にぬけいでむ力ありとも
 とる棹のころ長くもこぎよせむ蘆間の小舟さはりありとも
 國のためあなす仇はくたくともいつくしむべき事な忘れそ
 よもの海みなはらからと思ふ世になど波風のたもさわぐらむ
 あらはさむときはきにけりますらをがとぎし劍の清き光を
 戦のにはに立つ身をいかにぞと思へば花もみるこもせす
 もの、ふの野邊のかりふしいかにぞと思ひやらるゝよはの霜かな
 いかならむ薬あたへて國のためいたでおひたる人をすくはむ
 よと、もに語りつたへよ國のため命をすてし人のいさをを
 こらは皆軍のにはにいではて、翁やひとり山田もるらむ
 國の爲たふれし人を惜むにも思ふはおやのころなりけり

折にふれて 懐 戦のかちにほこりてむらぎもの心ゆるぶなわがいくさびと
 みち／＼につとめいそしむ國民の身をすくよかにあらせてしがな
 おもふこと思ふがまゝになれりとも身を慎まむことな忘れそ
 いかならむ事にあひてもたわまぬはわがしきしまの大和だましひ
 天をうらみ人をとがむこともあらじわがあやまちを思ひかへさば
 暑しともいはれざりけりにえかへる水田にたてるしづを思へば
 かたしと思ひたゆまばなにごともなることあらじ人のよの中
 おのか身はかへりみずしてともすれば人のうへのみいふ世なりけり
 末つひにならざらめやは國のため民のためにとわがおもふこと
 國をおもふみちにふたつはなかりけり軍の場にしたつともたぬも
 家富みてあかぬことなき身なりとも人のつとめにおこたるなゆめ
 千早ぶる神のかためしわが國を民と共に守らざらめや
 ほど／＼にころをつくす國民のちからぞやがてわが力なる
 よの中はたかきいやしきほど／＼に身を盡すこそつとめなりけれ
 國の爲いよ／＼はげめちよろづの民もころをひとつにはして
 千萬の民の力をあつめなばいかなる業も成らむとぞ思ふ
 なすことなくて終らば世に長きよはひをたもつかひやなからむ

國命